

## 第一問(現代文)解答例

(一)

△超越的な世界を社会の共有の場の知の世界から徹底的に排除し、知の世界を徹底的に合理化し、認識の普遍化をはかり、個人の主観の認識とそれを一致させたこと。(4点)

↓「超越的世界の排除」のみ配点、といった答案が多い中、必要な要素を余さず説明した答案である。また、「社会の共有の場の知の世界」など、本文に厳密な説明ができている。

(二)

△意識、無意識の領域で神の人間化が行われたのと同様に、教義においても、来世の神の意識を排除することで、神は現世を支配するコトバとなり、それも結局は人間の言語に収束したということ。(4点)

↓ここでは「神の人間化」「人間の神格化」といった表現は用いるべきではなく、そのために採点基準のA要素で減点になった。

(三)

△神のコトバが人間の理性、すなわち言語に収束するなら、感性や感覚に基づくその他の記号活動と異なり、言語のみが世界を記述しうると言えるから。(3点)

↓「言語は世界の《同型》」の言い換えが難しいところ。

※(一)～(四)の中では、この(三)が一番難しかったかもしれない。3点得点できているのは高得点である。

(四)

△絵画は世界に実在し認識できるものだけをリアルかつ完全に記述し、画家の主観的感情を表して他者と共有するものだと決められてしまうこと。(4点)

(五)

△近代の知の出発点は、目に見える宇宙をリアリティとして限定し、認識するものの主観性に閉じこめようとする意志作用の発見だったため、広義の人間科学においても自然科学同様にリアリティの正確で精密な記述への要求に応える言語が生まれたから。(7点)

△リアリティの範囲の限定としての主観性の発見は近代の知である自然科学と人間科学に共通した出発点である。その中で語の多義性を排し、リアリティの正確で精密な記述への要求が両者に起こることは、自然なことだと言えるから。(7点)